

車両安全対策を取り巻く状況

【社会の変化】

○少子高齢化の加速

- ・本格的な人口減少社会の中、2030年に65歳以上の高齢者の割合は3割に上る見通し。

○公共交通サービスの変化

- ・公共交通の維持確保が困難となる中、特に地方部においては、代替移動手段の確保が重要。

○移動・保有ニーズの変化

- ・コロナ、多様なモビリティなどにより、自動車保有や移動等ニーズが変化。

【技術の進化】

○自動運転関連技術の進化

- ・検知・処理技術等の向上により、衝突被害軽減ブレーキなど事故削減効果の高い装置が格段に普及。
- ・高速道路における自動運転技術(Lv.3)を搭載した乗用車を世界で初めて型式指定。

○電動化の加速

- ・カーボンニュートラル実現に向けた電動化の促進。

○その他車両安全技術の向上等

- ・衝突安全技術や事故自動通報システムなども発展。
- ・自動車基準の国際基準調和活動の推進。

【交通事故の状況】

○傾向

- ・令和2年の交通事故死者数は2,839人と戦後最小であるが、10次計目標(2,500人以下)は未達成。
- ・衝突被害軽減ブレーキ搭載拡大などによる寄与や、コロナによる交通安全への影響に注視。

○特徴の例

- ・死者数の半数は歩行中・自転車乗車中。また、死者数全体の6割は65歳以上の高齢者。
- ・高齢運転者等による運転操作ミスや健康起因による暴走事故等も多発。

今後の車両安全対策の方向性(案)

重点項目 (P)

【歩行者・自転車等乗員の安全確保】

○歩行者の安全確保

- ・夜間等に対応した衝突被害軽減ブレーキの安全基準の強化
- ・交差点右折時における対歩行者検知技術の向上
- ・歩行者頭部保護に関する安全基準の拡充
- ・車両周辺・後方視界の向上

○自転車等乗員の安全確保

- ・対自転車衝突被害軽減ブレーキの安全基準の拡充
- ・通信技術による出会い頭事故等防止
- ・パーソナルモビリティの安全対策 など

【自動車乗員の安全確保】

○子供の安全確保

- ・ISOFIX等の普及促進
- ・チャイルドシート等の未装着やミスユース防止・普及啓発促進
- ・多様なジュニアシートの開発・普及

○高齢者等の安全確保

- ・乗員保護技術向上による自動車アセスメント高評価車の普及拡大
- ・ヘッドレストの安全基準の拡大

○乗員保護対策の高度化

- ・シミュレーション等による研究促進
- ・衝突時加害性に基づく対策の検討
- ・自動運転車の乗員保護対策の検討 など

【社会的影響の大きい重大事故の防止】

○大型車による重大事故の防止

- ・衝突被害軽減ブレーキの安全基準の拡充・強化
- ・先進安全技術搭載の新車代替促進

○運転操作ミスや健康起因事故の防止

- ・ペダル踏み間違い時加速抑制装置の性能向上
- ・ドライバー異常時対応システム搭載拡大・安全基準の導入
- ・高齢運転者等見守りのためのドライブレコーダー活用促進

○運転者に対する遵法意識の醸成

- ・速度超過検知・警告装置の普及拡大
- ・自動速度制御装置の早期実用化 など

【自動運転関連技術の開発・実用化促進】

○安全運転支援装置等の搭載加速化・性能向上

- ・車線維持や車線変更機能等の高度な支援技術の搭載拡大

○事故自動通報システムの搭載拡大

- ・事故自動通報システムの搭載拡大
- 自動運転車の開発促進・安全確保
- ・高度な自動運転技術の安全性、認証審査等のあり方の検討

○自動運転関連技術等の社会受容性向上

- ・HMIなど運転者engagement技術の向上・ユーザー周知
- ・外向けHMIの研究開発や様々なインシデントへの対応技術向上 など

その他対策

- 重点項目以外の車両安全対策：高齢運転者に関する研究促進、タイヤ適正使用の促進、車載電池劣化の検証 など
- 他の交通安全対策との連携：事故後の緊急搬送までの時間短縮、V2XやITS等の通信技術の活用、プローブデータ等の利活用 など

次期目標の設定

- 目標年：**2030年(令和12年)**
- 目標値：「車両安全対策による**30日以内死者の削減数**(2020年比)」と「車両安全対策による**重傷者の削減数**(2020年比)」